夜行列車アンケート資料

Q1　研修にはどんな意気込みをもって参加していたか教えてください。

＜赤錆＞

自分の知らないことを学べることを楽しむ。

＜小嶋＞

自分は今まで話し始めたまま会話を無責任に抜けてしまうことであったり、結果何も生まれない話し合いをしてしまうこと多かったので、6月の研修では話し合いの上手な終わり方、その話し合いでは何が生まれたか、何が決まったかのかをしっかりと実感することができるようにしようという目標をもって臨みました。

＜澤本＞

社会人としての基礎を身につけたい エンジニアとして基本の知識を身につけたい

＜佐々木＞

プログラミングの知識を付ける。チーム作業を円滑に進めるためのコミュニケーションの取り方を身につける。

＜井上＞

研修で触れる範囲の言語（JavaScript、Java）は使いこなせるようにする。

Q2　自分の役割を選んだ理由について教えてください。

＜赤錆＞

構成管理担当は自分自身がservletなどの範囲についてのそれぞれの役割やそれらの関係性についての知識をあまり身に着けられていなかったので、それらのファイルを扱う必要がある構成管理の担当になることでそれらを理解したいという気持ちがあった。 コミュニケーション担当はSEではコミュニケーションが大事だといろいろな人からさんざん言われたのでそれに関する担当につきたいと思った。

＜小嶋＞

自分は今までの生活の中で、とにかく計画通りに物事を進めることが苦手で、 苦手なものに挑戦したいと思い、品質管理を選択しました。期限に対してどの程度の機能を実装させることができるかに重点を置いて活動したいと思ったのも理由です。

＜澤本＞

今後PLやPMといった役職についてみたいという願望があるため、実際の仕事に近いこのグループワークの経験を基に自分ができることとできないことを見定めたいと思ったため。

＜佐々木＞

自分はもともとプレゼンをするのが苦手だったが、今後社会で働いていくうえでプレゼンは重要だと感じており、研修を通して力をつけたいと思ったため。

＜井上＞

名刺管理アプリではDBにほとんど触れておらず、バックエンドの知識がほとんどないと感じていたため。

Q3　研修前と、今の気持ちの変化について教えてください。

＜赤錆＞

研修前、プログラミングはもっとルールにがんじがらめなものであると思っていた。 確かにプログラミングはルールで縛られている部分も多いんですが、そのルール内であれば意外と自由であるというのがプログラミングに対する自分の気持ちです。

＜小嶋＞

5月の中旬に体調を崩してしまい、初めの2日間演習に参加できず、初めから出遅れてしまったことへの少し不安がありましたが、グループのメンバーのおかげですんなりと参加することができました。初めの頃はとにかくグループのメンバーに迷惑を掛けたくないということばかり考えていましが、今では自分のできることをやろうという意識に変わりました。

＜澤本＞

最初は、ついこの前までただの学生だった自分が社会人としてやっていけるのか、全く知らない人たちの中で上手くコミュニケーションを取っていけるのか、という2点に大きく不安を抱いていました。現在は少しずつではあると思いますが気持ちの面やタスク管理の面で主に成長できたのではないかと思っています。また、コミュニケーションもただ仲良くなるだけではなく相手の気持ちや意見を聞き全体にとって良い方向に話を持っていくということができるようになったのではないかと思います。

＜佐々木＞

最初は自分にできることが無く、ついていけるか不安だったが、今はチームのメンバーが心強いと感じている。

＜井上＞

研修前はついていけるかどうかや、自分に向いていないと感じていたらどうしようと考えていた。現在はそんなことを考えてる暇があるなら勉強しようという感じ。結構楽しい。

Q４　自分の成長を感じるエピソードを教えてください。

（できれば、技術面と技術以外の面で2つ）

＜赤錆＞

技術面では、チーム開発に入り日々自分に足りない知識を補う中で、名刺管理アプリの時に解決できなかった不具合が唐突に解消できた。 技術以外では、同じ生活習慣を続けることで勝手に目が覚めるようになった。

＜小嶋＞

技術面の成長としては、グループ開発入ってから、自分の知識の知識の曖昧だった部分（サーブレット関連）が浮き彫りになり、理解をしてからコードを書くようにすることを続けていくうちに、以前よりスラスラと書くことができるようになりました。

＜澤本＞

技術面：サーバーサイドJavaに関してまだまだ未熟であることは前提なのですが、知識ゼロだったところからコードを見ながら何となくやっていることを理解できるようになったという点に関して成長したと思います。最初は何が何だかわからずテキストを何度も振り帰ったりネットで調べたりしていたのですが、それぞれの役割や大まかな流れを理解することができるようになりました。

＜佐々木＞

技術以外の面：何か一つのことができなかったとき、様々な方法を試して自分なりの答えが見つけられるようになってきた点が成長したと感じます。共通部分のメニューやタスク表示部分などの配置で、どこがどこに影響しているか確認しつつ現状を紙に書いて整理し、過去に教えていただいた移動の仕方を何パターンか活用するなどしてどうにか作り上げることができました。全体を通して自分で調べる能力はかなり上がったのではないかと思います。

＜井上＞

技術面では、今までなんとなく動かしていたDAOについて、それぞれのコードが何をして、どのように動いているかを理解できるようになった。 技術面以外では、以前よりも自分の意見を伝えられるようになった。また、発言するべき時とそうでない時を見極めて発言できるようになったと思う。

粘り強くなった。以前はエラーが出ると解決方法がわからず先生に頼ったり、諦めたりしていたが、現在はchatGPTを利用してエラーメッセージを理解しようとする姿勢に変わった。 ・少しは処理のロジックを考えられるようになった。非同期でのデータの取得や、条件に応じてデータを追加・更新など、todoアプリを作る中で基本的なロジックを考えられるようになった気がする。

Q５　今、研修で一番大変に感じていることについて教えてください。

＜赤錆＞

自分自身がやっていることや自分が分からないところを言語化して人に伝えることが難しい。自分の理解が少しでも違っていたり、その人と感覚が違ったときに表現するすべがないことが多い。

＜小嶋＞

期限があるのでそこに合わせたクオリティでの完成をさせなければいけない点です。 他のグループが自分たちより進捗が速かったりということを耳にすると、どうしても不安を感じることはあります。

＜澤本＞

自分の作業も進めつつリーダーとしての役割を全うすることです。 初めて知ったことを使いながらプログラムすることも大変ですし、経験・知識が足りないからこそその場においての最適解を出した上で行動することも難しいと感じました。このどちらも同時に行うのはとても大変でした。

＜佐々木＞

限られた時間の中でより良い発表にするために何ができるか考えたり、手を動かしたりすること。

＜井上＞

時間が足りない ・チームメンバーと連携しながら効率的に開発するのが難しい

Q6　今一番楽しく感じていることについて教えてください

＜赤錆＞

自分のやっていることがきちんと反映されたとき。 研修が終わりに近づくにつれ、配属が近づいてきたが本番の現場で仕事として早くプログラミングをしたいというわくわくはある。

＜小嶋＞

コードを書いていく中で思ったように動いた時は嬉しいです。就業後にそのまま少し会話することがリフレッシュになっています。長かったグループ開発もあと1週間と考えると少し寂しく感じます。

＜澤本＞

自分が組んだコードで機能が作動するようになったことが目に見えたときと、だんだん形が見えてきたときにグループの士気が更に上がる時です。

＜佐々木＞

チームのメンバーと協力して自分たちのシステムが出来上がっていくこと。

＜井上＞

ロジックを考え、それを実現するためのコードを書いて、実際に考えた通りにデータを受け渡しできること。 ・非同期処理など新しいことを学び、それを自分たちが作っているアプリに組み込んで、動いたとき。

Q７　チーム全体の成長を感じたことを教えてください。

＜赤錆＞

各々が自分のチームでの立ち位置を確立して、やるべきことをやっている。

＜小嶋＞

６月の初めの頃よりも、報告の中での言語化能力が高くなったと感じています。 他にも気は遣わずに作業できるようになり、月初に比べ円滑なコミュニケーションをとれるようになっていると感じています。

＜澤本＞

圧倒的にコミュニケーション量が増えたことです。 全員真面目で努力家なのですが、緊張からなのか最初は話すことが少なく遠慮がちなイメージがありました。しかし、プライベートな話や冗談を言ったり実地で直接コミュニケーションを取ったことでだんだん話しやすい空気が流れるようになり、その後の話し合いがスムーズに進むようになりました。

＜佐々木＞

最初は遠慮がちだったメンバー同士が、積極的に議論を交わせるようになった。

＜井上＞

それぞれがDAOなどのメソッドを自分で書けるようになったこと。 また、メソッドを使いまわせるように共有していたこと。